

「ポルトガル語圏の外国人児童生徒への 日本語指導の研究」の実践記録

足利市立山辺小学校 須 永 悦 啓

1 はじめに

新学習指導要領では、国際理解教育がこれまで以上に求められている。小学校で英語も扱うことができるようになってきた。1990年代からは来日する外国人が増加してきており、入学する外国人児童生徒もそれに伴って増加してきた。今では、学校に外国人が在学していても珍しいことではなくなっている。国籍も英語圏の子供だけではなく様々である。その中で、法改正もあり特に日系の人たちが多くなってきている。その人たちの使う言語は、スペイン語であり、ポルトガル語であったりする。私が、山辺小の日本語教室を担当したときもスペイン語が母国語の子もいたし、ポルトガル語が母国語の子もいた。共通していたのは、日本語に初めて接するとことである。

そのような子供たちが、少しでも早く日本語を習得して、学校生活に適応できるような支援をしてあげたいと努めていた。が、改めて日本語を教えようとする、とまどうことばかりであった。入学したての1年生なら易しい日本語で伝わるのが、伝わらないのである。どうしても、初めのうちは、相手の国の言葉を介在させなくてはならない。したがって、こちら最低限の知識が必要である。

また、こちらの言いたいことがうまく伝わったとしても、それで理解してくれるとは限らないことである。それは、日本と文化、風俗、習慣、宗教、教育事情など多くの背景が異なっているため、場合によっては日本の常識が相手にとっては非常識なことになってしまうからである。単に言葉を理解するだけでなく、文化的背景を理解する必要もある。

そんな時、平成13年度前期の内地留学の機会を与えていただいた。そこで、日本語教室を担当したときに感じた課題について考えることができた。今回は、ポルトガル語を中心に研究を進めることができた。ポルトガル人の先生につくことができ、会話だけでなく、ブラジルの生活、習慣、食、経済、教育事情、家族観、都市農村の様子、外国人児童生徒教育拠点校の子供たちの様子など多方面にわたり話を聞く機会に恵まれることができた。

その中で、外国人児童生徒が日本人の子供たちと一緒に教室で勉強することができるのが、一番よく、そのための教材が不足しているという話を伺った。そのようなことから、研究のまとめにあたり、1年生の教科書をポルトガル語に翻訳したものを作ろうと考えた。それがあれば、教室と一緒に学習できるし、家庭に持ち帰って、親も一緒に学ぶことができるだろうと考えたからである。1年生の教科書を選んだのは、ひらがな・カタカナ・漢字・作文等の基礎的なことを系統立てて学習することができる優れた教材と思われるからである。

また、いくつかの外国人児童生徒教育拠点校を訪問させていただく機会を得ることができた。各学校で先生方が様々な工夫や努力されている様子を見せていただき、頭の下がる思いがした。そして、学校だけでは解決しきれない多くの問題があることにも気づかされた。

2 外国人児童生徒教育拠点校への訪問

○ 真岡市立真岡西小学校

学校の概要

真岡工業団地が完成してから急激な人口増加をしている。1989年入国管理法が改正され、南米日系人とその配偶者や子供に、就労・在留資格が認められる。工場で就労する外国籍の人々の子供たちも多く、編入・転入するようになった。

学校生活への適応

特別な援助や補助を必要とせずに、校内での生活ができるようになることを目指して行われている。指導方法は、一人ひとりの実態にあわせて決定されている。そして、日本語の習得状況の進展に伴って、通級時間を減らしたり、生活適応指導から教科補充指導に移行させている。

段階	日本語の習得状況	通級時間と内容
編入	・来日直後であり、周りの状況をほとんど理解できない	8～12時間
当初	・簡単な指示も理解できず、大変心細い状況である。	生活適応指導
初期指導	・日本語の理解はできないが、簡単な指示程度なら、周りの状況から判断できる。 ・自分の近くの友だちが優しく世話をしてくれている状況が理解できる。	5～10時間 生活適応指導 日本語指導
中期指導	・日常会話程度の意志の理解ができる。 ・簡単な単語を使って、友だちと一緒に遊ぶことができる。 ・ひらがな・カタカナの読み書きができ、簡単な文を読むことができる。	4～6時間 日本語指導 生活適応指導
後期指導	・日常会話ができ、生活にはほとんど困らない。 ・込み入ったり、漢字が多く入ったりしていなければ、文章を読みとることができる。 ・簡単な作文を書くことができる。 ・該当学年の教科の学習では、理解できないことが多い。	2～4時間 教科補充指導 日本語指導 生活適応指導

◎ 60名近く外国人児童生徒が在学しているので、日本語教室も人員や資料が充実している。担当者は2名で、それにブラジル人の通訳の方が1名、週2回訪問をしている。学校からの連絡などの翻訳や日本語ができない児童との通訳を行っている。3人の協力体制がしっかりできていると感じられた。

○ 真岡市立真岡中学校

・日本語教室の概要

- ① 現在ペルー・ブラジル・ボリビア国籍の生徒8名が在籍している。
- ② 生徒の日本語能力によって、A・B・Cコースの3つに分け、取り出し授業を行っている。
- ③ コース分けは、テキスト（「初級日本語」）に準じて作成した「日本語テスト」の結果を参考にしている。
- ④ 日本語、教科の補充（数学・国語）と教育相談の授業を開設しているが、本人からの希望や教科内容についての質問があれば、日本語の授業の中で他の教科についても指導して

いる。

- ⑤ 指導は日本語指導・教科の補充指導・教育相談を6名の担当教員で行っている。一部チームティーチングも行っている。

・日本語の指導

- ① 入門期・Aコース…滞日年数が2年程度までで、日本語や日本の生活習慣が身に付いていない生徒が所属している。日常生活に困らない程度の日本語を習得し、学校生活に慣れさせることを目的としている。
- a ひらがな、カタカナと身の回りの物の名前を覚え、書くことができる。
 - b 小学校1～2年生程度の漢字の読み書きができる。
 - c 自分の伝えたいことを話して伝えることができる。
 - d 分からないことを聞くことができる。
- ② Bコース…日常の会話に大きな支障はなく学校生活を送っており、日本語の能力が小学校2年生程度の生徒が所属している。
- a 学習内容を理解し、意欲的に授業に参加することができる。
 - b 小学校3～4年生程度の漢字の読み書きができる。
 - c 助詞等の使い方に気をつけて、話したり、書いたりすることができる。
 - d 教科書の文を声に出して読むことができる。
- ③ Cコース…日本語の能力が高く、小学校3年生以上の漢字や文章を読んだり、書いたりすることができる生徒が所属している。また、日記や作文等も自分の考えを加えながら書ける。
- a 学習の内容を理解し、意欲を持って授業に参加することができる。
 - b 日記や作文を通して、自分の考えや意見を書くことができる。
 - c 助詞等の使い方に気をつけて、話したり、書いたりすることができる。
 - d 学習した漢字を積極的に使うことができる。
 - e 学習で分からないことを教師に聞くことができる。
 - f 物語（本やVTR）の内容を理解しながら読んだり書いたり見たりすることができる。
 - g 自分の体験や考えをもとに作文を書くことができる。
- ◎ ここではスペイン語のできる方が通訳として先生たちと協力していた。しかし、義務教育が終わる時期なので進学か就業かの問題が大きいだけでなく、義務教育が無償なのを知らずに来日して何年も入学しなかった生徒や学業についていけずに退学してしまう生徒など、中学校ならではの深刻な問題があることを教えられた。

○ 真岡市立亀山小学校

学校の概要

真岡市立真岡西小学校の過大規模及び遠距離通学解消を図るため、昭和60年に開校し、17年目を迎えた学校である。典型的な農村地区であったが、隣接する工業団地の住宅化が進んでいる。しかし、学校周辺には自然も豊かに残っている。

平成11年度からは真岡市教育委員会からカブスカウト実験研究校の指定を受け、活動を通じた心の育成に取り組んでいる。

- ◎ ブラジル人の男子が1名在学している。本人は明るく素直である。一つのことに集中して

取り組むことができるが、ほかのことへに素早い切り替えができないことがある。親とも連絡を密にして指導に当たっている。

日本語教室の先生と通訳の方の二人の協力体制がよくとられているので、問題となる行動は少なくなってきた。日本とブラジルの双方に通じた方の協力が欠かせないのを強く感じた。

○ 佐野市立佐野小学校

・日本語教室の概要

主として、「聞く・書く・話す」ことを基本とし、国語や算数などの教科の基礎・基本を理解するための援助や学習能力の向上を図る。日本の生活様式、習慣や日本人の生き方について理解を深める。佐野の自然や文化、遊びを取り入れた体験的な学習や異文化を生かした教育活動を行う。

・指導上の留意点

- (1) 日本語能力の把握（会話・読み・書き等）
- (2) 学習能力・意欲等の把握（出身国での学習教科と内容の把握）
- (3) 実態調査（出身国の教育環境・生活環境等の把握）
- (4) 家庭状況（現在の家庭状況についての把握）
- (5) 原籍校との連携（日本語教室 学級担任、連絡ノートの活用）
- (6) 教育相談（本人または保護者の学校への要望・来日後の悩み等の相談）

◎ 自校の外国人児童生徒だけでなく、地域の数校の外国人児童生徒が通級しているが親の送迎が難しい場合もあって、通級ができない児童もいるという。しかし、日本語教室を開設して10年になるのでポルトガル語、スペイン語の教材や資料が豊富であり、担当者もブラジル居住者だったので、言葉の壁もなく通級している子供たちは幸せである。

3 ポルトガル語の会話

ブラジルポルトガル語の発音は、ローマ字読みと異なる発音もいくつかあるが、基本的にローマ字読みによく似ている。

外国人児童生徒は、例え一言でも母国語で話しかけられると、とても嬉しいものであるようだ。

おはよう。 Bom dia.

ご機嫌いかがですか（元気ですか）？ Como vai?

元気です。ありがとうございます。 Bem, obrigado (a). E voce?

とても元気です。ありがとうございます。 Muito Bem, obrigado (a).

こんにちは Boa tarde. こんばんは（お休みなさい） Boa noite.

またあした Ate amanha バイバイ Tchau

初めまして。 Muito prazer. 私の名前は、…です。 Meu nome é ….

こちらこそ。 Igualmente. 私の名前は、…です。 Meu nome é ….

どちらの出身ですか De onde você é?

あなたの名前は何ですか Como é seu nome?

ありがとうございます obrigado (a) … 男性がオブリガード、女性がオブリガーダと言う。

昨日はありがとうございます Obrigado por ontem.

どういたしまして ^{デ ナーダ} De nada. 失礼します ^{コン リセンサ} Com licença. ごめんなさい ^{デスクウビ} Desculpe
 すみません ^{ベルダワン} Perdão 申し訳ありません ^{スイント ムイント} Sinto muito. すばらしい ^{マラヴィリョーゾ} Maravilhoso!
 よいですね ^{キ ボン} Que bom! まあ、きれい (すてき) ^{キ ボニート} Que bonito (a)!
 ああ、驚いた ^{クエ ススト} Que susto! おめでとう ^{メイウス パラベンス} Meus parabéns!
 お誕生日おめでとう ^{フェリス アニヴェルサリオ} Feliz aniversário! これは何ですか? ^{オ キ エイスト} O que é isto?

4 光村図書1年(下)ともだち

一 こえに だして よもう

1 Vamos ler em voz alta

くじらぐも

なかがわかきもと さく
りえこ こうぞう え

A NUVEM BALEIA

Obra de Reko Nakagawa
Desenho de Kouzou kakimoto

四じかんめのことです。

Estava na quarta aula.

一ねん二くみの 子どもたちが たいそうを して いると、空に、大きな くじらが あらわれました。

Quando os alunos da 1ª série classe 2 estavam fazendo ginástica, e neste moment apareceu no ceu nma baleia grande.

まっしろい くもの くじらです。

Era a baleia de nuvem bem branquinha.

「一、二、三、四。」

“Um, dois, três, quatro.”

くじらも、たいそうを はじめました。

A baleia também começou fazer a ginástica.

のびたり ちぢんだり して、しんこきゅうも しました。

Ela esticou o corpo, encolheu o corpo, e fez também a respiração profunda.

みんなで かけあして うんどうじょうを まわると、くもの くじらも、空を まわりました。

Quando as crianças deram a volta no pátio correndo, a baleia também deu a volta pelo céu.

せんせいが ふえを ふいて、とまれの あいずを すると、くじらも とまりました。

Quando o professor apitou e fez o sinal de parar, a baleia também parou.

「まわれ、右。」

“Á direita volver!”

せんせいが ごうれいを かけると、くじらも、空で まわれ右を しました。

Quando o professor deu ordem, a baleia também volveu á direita no céu.

「あの くじらは、きっと がっこうが すきなんだね。」

“Aquele baleia certamente gosta de escola!”

みんなは、大きな こえで、「おうい。」と よびました。

Todos chamaram em voz alta “Oi!”

「おうい。」と、くじらも こたえました。

A baleia também respondeu.

「ここへ おいでよう。」

“Venham aqui!”

みんなが さそうと、「ここへ おいでよう。」と、くじらも さそいました。

Todos chamaram. “Venham aqui!” A baleia também chamou.

「よし きた。くもの くじらに とびのろう。」

“Combinado, vamos subir na baleia!”

男の子も、女の子も、はりきりました。

Os meninos e as meninas entusiasmaram-se.

みんなは、手を つないで、まるい わに なると、「天まで とどけ、一、二、三。」とジャンプしました。

Todos de mãos dadas fizeram a roda, e saltaram dizendo. “Vamos chegar ao céu, um, dois, três.”

でも、とんだのは、やっと 三十センチぐらいです。

Mas, conseguiram pular apenas 30cm.

「もっと たかく。もっと たかく。」と、くじらが おうえんしました。

“Mais alto, mais alto.” A baleia torceu.

「天まで とどけ、一、二、三。」

“Vamos chegar ao céu, um, dois, três.”

こんどは、五十センチぐらい とべました。

Esta vez conseguiram pular quase 50cm.

「もっと たかく。もっと たかく。」と、くじらが おうえんしました。

“Mais alto, mais alto.” A baleia torceu.

「天まで とどけ、一、二、三。」

“Vamos chegar ao céu, um, dois, três.”

そのときです。

Nesse momento:

いきなり、かぜが、みんなを 空へ ふきとばしました。

De repente, o vento soprou todos para o céu.

そして、あっと いう まに、せんせいと 子どもたちは、手を つないだ まま、くもの くじらに のって いました。

E num instante, o professor e as crianças de mãos dadas, estavam em cima da baleia.

「さあ、およぐぞ。」

“Agora, vamos madar!”

くじらは、あおい あおい 空の なかを、げんき いっぱい すすんで いました。

A baleia foi avançando o céu azul com muito vigor.

うみの ほうへ、むらの ほうへ、まちの ほうへ。

Em direção ao mar, em direção à aldeia, em direção à cidade.

みんなは、うたを うたいました。

Todos cantaram uma canção.

空は、どこまでも どこまでも つづきます。

A céu continuava eternamente.

「おや、もう おひるだ。」

“ Olhe, já é meio-dia. ”

せんせいが うでどけいを 見て、おどろくと、「では、かえろう。」と、くじらは、まわれ右をしました。

O professor viu o relógio de pulso e ficou assustado. “ Então, vamos voltar. ” A baleia voltou à direita.

しばらく いくと、がっこうの やねが、見えて きました。

Depois de algum tempo, começou enxergar o telhado da escola.

くじらぐもは、ジャングルジムの 上に、みんなを おろしました。

A nuvem baleia deixou todos sobre o jangle jim (brinquedo do patio),

「さようなら。」

“ Adeus! ”

みんなが 手を ふったとき、四じかんめの おわりの チャイムが なりだしました。

Quando todos acenaram, tocou a campainha do término da quarta aula.

「さようなら。」

“ Adeus! ”

くもの くじらは、また、げんき よく、あおい 空の なかへ かえって いました。

A nuvem baleia novamente voltou ao céu azul com muito vigor.

こえに だして よもう

Vamos ler em voz alta

▶ 「くじらぐも」を、こえに だして はっきり よみましょう。

Vamos ler claramente em voz alta a nuvem baleia.

▶ くじらや せんせい、子どもたちの やくに わかれて よみましょう。

Vamos ler, separando em papel de baleia, o professor, as crianças.

▶ くもの 上で、みんなは、どんなことを はなしたでしょう。

Sobre o que sera que todos conversaram em cima da nuvem?

はなした ことばも いれて よみましょう。

Vamos ler colocando as palavras que conversaram.



くもの 上から 見つけた ものの ことを、はなして いると おもうな。

Eu acho que estão conversando sobre o que encontraram de alto da nuvem.



くじらや せんせいも、きっと なにか はなしたよね。

Certamente o professor e a baleia também conversaram algo, não é?

子ども	crianças	男	homen	天	céu
空	céu	女	mulher	上	cima
右	direita	手	mão		

か た かな KATAKANA

● のばす おんの かきかた **Modo de escrever um som prolongado**

ハンバーグ ←→ おばあさん	シール ←→ おにいさん
hamburger avó	etiqueta selo irmão
スープ ←→ すうじ	スケート ←→ おねえさん
sopa número	patinação(patins) irmã
ソース ←→ そうじ	マフラー
molho limpeza	cachecol

● ちいさく かく かな **Kakana que se escrevem pequenas**

カップ ←→ かっぱ	ジャングル ←→ じゃんけん
xícara capa	floresta janquem
ニュース ←→ にゅうがく	チョーク ←→ ちょうちん
notícia ingresso a escola	giz tyoutin(lanterna da papel)
ヘルメット	ジュース
capacete	suco

ハンバーグ hamburger	シール etiqueta selo	スケート patinacao (patins)
ソース molho	マフラー cachecol	カップ xicara
ニュース notica	チョーク giz	ヘルメット capacete

日づけとよう日

DATAS E DIAS DE SEMANA

一月一日 ^{ついたち} おしょう月。	Dia 1 de janeiro ano novo.
二月二日 ^{ふつか} は みんなで こたつ。	Dia 2 de fevereiro todos no "Kotatsu".
三月三日は ももの はな。	Dia 3 de marco flores de pessego.
四月四日は さくらの はなみ。	Dia 4 de abril, ver as flores de cerejeira.
五月五日は こいのぼり。	Dia 5 de maio, levántar as carpas.
六月六日は わかぼの こみち。	Dia 6 de junho, caminho de folhas novas.
七月七日は あまの川。	Dia 7 de julho, via-láctea.
八月八日は なつ休み。	Dia 8 de agosto, ferias de veráo.
九月九日 くりひろい。	Dia 9 de setembro, catar castanhas.
十月十日は うんどうかい。	Dia 10 de outubro, gincana esportiva.
十一月十一日 おちばひろい。	Dia 11 de novembro, cater folhas secas.

十二月^{はつか}二十日は、早く こい こい おしょう月。

お日さま 大すき、日よう日。

月が だた だた 月よう日。

火の ようじんだ、火よう日は。

ホースで 水まき 水よう日。

くりの 木 見つけた 木よう日。

お金を もらった、金よう日。

土あそび する 土よう日だ。

Dia 12 de dezembro, venha logo ano novo !

Gosto muito de sol, domingo.

A lua surgiu, surgiu, segunda- feira.

Cuigade com o fogo, terça- feira.

Jagar água com mangueira, quarta- feira.

Achei amm pé de castanha, quinta- feira.

Ganhei dinheiro, sexta- feira.

Brincar de lama, sabado.

一月 janeiro

早い cedo

金 dinheiro

休む descansar

水 agua

土 lama

三日 dia 3

六日 dia 6

七日 dia 7

八日 dia 8

十一日 dia 11

大すき gostar muito

月 lua

月よう日 segunda- feira

水よう日 quarta- feira

木よう日 quinta- feira

金よう日 sexta- feira

土よう日 sabado

ホース mangueira

5 お わ り に

外国人児童生徒に日本語を指導するためには、教師と子どもの信頼関係が不可欠である。それを築くためにも、相手国の言葉への理解が必要だし、初めのうちは相手国の言葉に翻訳された教材が必要と思われる。日本を訪れた外国人の親と子供たちの不安を少しでも解消できるように努力していけたらと思う。

評

近年の外国人児童生徒の増加に伴い、日本語指導を中心とした適応指導の充実をはじめとし、学習面・生活面での対応など、外国人児童生徒への支援については多様な対応が求められておりますが、本研究は、筆者が山辺小学校の日本語教室での外国人児童生徒とのかかわりから見いだした課題をもとに、内地留学をとおして研究されたものであります。

研究の成果としては、主に次の点があげられます。

- ・外国人児童生徒の教育に先進的に取り組んでいる学校の実践をまとめ、紹介するとともに、それらの学校の訪問をとおして、学習支援体制の整備、外国人児童生徒の母国と日本の双方に通じた方の協力の必要性、保護者に対し日本の教育制度に対し理解していただくことの必要性、特に中学校における進路の問題、そして教材や資料の整備などの課題を指摘している。
- ・母語を活用した学習支援教材として、ポルトガル語の基本的な日常会話が紹介されており、日本語指導において有効であるだけでなく、外国人児童生徒とともに学校生活を送る日本人の児童生徒、そして教職員にとってもお互いの関係づくりを進める上で、貴重な資料となる。
- ・ポルトガル語の教材を1年生の国語教材をもとに作成されているが、これらの教材は、外国人児童生徒の立場に立った指導を可能にするものであり大変貴重な教材といえるだけでなく、学習に必要な日本語を母語で学ぶことで、母語の保持育成にも有効であると考えらる。

これらの研究の背景には、様々な不安や困難をもつ外国人児童生徒が安心して学校生活を送り、自己実現できるよう支援をしてあげたい。そのためには教師と子供の信頼関係が不可欠であり、まず教師自身が外国人児童生徒の国の言葉について、そして文化的な背景について理解しなければならないというような思いがあります。このような人種や国籍を越えて一人一人を認め大切にすることを具体的な取り組みの実際から、多くの示唆を得るえることができますが、今後さらに実践研究を深め、外国人児童生徒一人一人が生き生きと学校生活を送れるよう指導の充実を図られることを期待いたします。